

## V 2017 (平成 29) 年度 全学 FD 教員研修会実施報告

### 1. 実施概要

今回の研修会は「社会とつながるゼミ運営」をテーマとし、酒井久美子准教授（福祉生活デザイン学科）と廣瀬直哉教授（心理学科）による事例報告がおこなわれた。

酒井准教授の事例報告「地域協働ふるじえくとー学生主体の活動を意識してー」では、酒井准教授が担当する地域福祉ゼミ（生活福祉文化特論・3年次ゼミ）で取り組んでいる「地域協働ふるじえくと」の活動が報告された。「地域協働ふるじえくと」は、教職員にとっては学内でのパン販売で親しみのある活動であるが、活動の背景や目標、これまでの活動の経緯、さらにゼミの授業として活動を展開するにあたっての工夫や課題について詳しく述べられた。

廣瀬教授の事例報告「プロジェクト学習を活用したゼミ運営」では、プロジェクト学習（PBL; Project-Based Learning）の意義や身につく能力が述べられたのち、廣瀬教授が担当するゼミ授業において2015年度と2016年度にNPO法人「歩くまち・京都」と行った共同プロジェクトの活動内容が紹介された。

事例報告を受けて後半は、参加者が各々担当するゼミ授業の状況等について、グループごとに話し合った。

日 時：2018（平成 30）年 2 月 21 日(水) 10：00 ～ 11：30

場 所：ユージニア館 大講義室

テーマ：「社会とつながるゼミ運営」

講 師：心理学科 廣瀬 直哉教授 福祉生活デザイン学科 酒井 久美子准教授

コーディネーター：FD 委員会（向山委員長、大川委員、中里委員、田中委員、藤原委員）

出席者数：59 名（教員 55 名、職員 4 名）

#### 出席者の内訳：

学長	人間文化学部		現代人間学部			教員 出席者計	教員 現員数	参加率	職員
	英語英文	人間文化	福祉生活 デザイン	心理学科	こども 教育				
1	8	9	12	14	11	55	71	77.5%	4

### 2.現状と今後の課題

今年度の全学 FD 教員研修会は、「他の先生方がどのようにゼミ運営をされているのかを知りたい」という教員の要望を踏まえ、また大学に対して社会連携、地域協働が求められている今日的な状況を鑑みて、「社会とつながるゼミ運営」をテーマとし、お二人の先生の教育実践の事例報告を中心にしておこなった。

酒井先生は、学生たちが地域にある課題に目を向け、自分たちにできることを考え、それを実践する活動な学びとして、ゼミを位置づけておられた。活動の内容のユニークさもさることながら、先生が学生主体の活動となるように学生との対話を重視され、時に「それは本当に自分たちのやりたい活動なのか」と揺さぶりをかけるとされたのが印象的だった。

廣瀬先生は、3年次のゼミを、現実社会で起こっている真正な (authentic) 問題の解決に他者と共同して取り組んでいくプロジェクト学習と位置づけられ、これをとおして学生たちに社会人基礎力をつけようとしているとお話くださった。ゼミで取り組まれた京都市の公共交通の利用促進のための調査、それを踏まえたアイデアの提供と情報発信について報告してくださった。

59名の参加者があり、参加者アンケートでは50.0%が「大変有意義であった」、46.4%が「有意義であった」と回答し、きわめて満足度の高い研修会となった。お二人の先生の事例報告のあとに少人数グループ（自分の所属している学科以外の教員と交流できるように配慮した）に分かれて意見交換をする時間を設けたが、そのこともまた好評であった。

参加者アンケートでは、FD活動として今後取り組んでみたい内容についても聞いてみた（複数回答可）。それによると、「学力不足学生への学習支援」21.5%、「キャリア教育」14.0%、「アクティブ・ラーニング」12.1%、「授業での情報機器の活用法」9.3%、「障害のある学生への支援・配慮」8.4%となっている。今後の企画の際の参考にしたい。

文責：田中 裕喜（現代人間学部 こども教育学科 FD委員）